

平成 28 年度 施策評価表

施策 (章)	第 3 章『健康・福祉』
-----------	--------------

まちづくりの目標	思いやりの心で支え合う 幸せに暮らせるまちをつくります							
分野別計画・指針	第2次所沢市地域福祉計画、所沢市放課後子ども健全育成基本方針、第2次所沢市ひとり親家庭等自立支援計画、所沢市子ども・子育て支援事業計画(ところっこすくすくサポートプラン)、第6期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画、第3次所沢市障害者支援計画、所沢市保健医療計画、所沢市新型インフルエンザ等対策行動計画、第二次所沢市市民医療センター改革プラン							
予算額	平成28年度当初予算	98,950	百万円中	52,544	百万円	構成率	53.1	%

基本構想で掲げたまちづくりの目標の実現に向けた主な方針

- ◆ 地域に根ざした保健・医療・福祉の充実
- ◆ 自立に向けた支援の充実
- ◆ 生涯を通じた健康づくりの推進
- ◆ 子どもたちと子育て家庭への支援の充実
- ◆ 小児医療の充実

基本構想で掲げた「市の課題・方向性」への取り組み状況に対する振り返り

○「第2次地域福祉計画」「第3次障害者支援計画」「第6期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」に沿って、各種施策を実施した。
 ○地域福祉の拠点施設である「所沢市子どもと福祉の未来館」の整備事業は、設置条例を制定するとともに、太陽光発電設備工事、外構工事をそれぞれ契約し、平成29年1月の開設を目指し既存の工事と合わせて計画的に進めた。
 ○所沢市保健医療計画策定委員会にて検討を重ね、平成28年3月に保健と医療の一体的な計画となる「所沢市保健医療計画」を策定した。
 ○精神障害者が住み慣れた地域で生活を維持し継続していくために、精神科医、看護師、作業療法士等の多職種による「精神障害者アウトリーチ支援事業」を開始した。
 ○在宅医療を実施している医療機関との連携強化を図るとともに、小児初期救急医療体制の維持に努めた。
 ○救急医療等の不採算医療を担う社会医療法人が開設する病院に対し、運営費の一部の補助を行い、地域医療の充実を図った。
 ○生活困窮者が、困窮状態から早期に脱却し自立できるよう「生活困窮者自立促進支援事業」を実施した。
 ○民間保育園2園の施設整備を進め、200人の受け入れ枠を確保した。

基本構想で掲げた「まちづくりの目標の実現に向けた主な方針」の実行にあたって、特に力を入れていくこと。

○「所沢市子どもと福祉の未来館」については、平成29年1月の供用開始に向けて運営を行うための契約等を行うとともに、規則の制定や実施する事業を検討するなど具体的な準備を進める。
 ○第6期高齢者福祉計画・介護保険事業計画に基づき、地域包括ケアシステムの構築を引き続き進める。
 ○「第3次所沢市障害者支援計画」に基づき、障害者の自立に向けた生活支援・就労支援等の充実を図る。
 ○所沢市保健医療計画推進委員会において、所沢市保健医療計画の進捗状況の点検・評価を行い、計画の推進を図っていく。
 ○障害のある人が、住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまちを実現させるため、(仮称)障害者差別解消条例の策定を進める。
 ○子どもたちが健やかに育つために必要な環境づくりのため、子どもと家族を支援する拠点を整備し活用を進める。
 ○各がん検診の受診率向上を目指すとともに、本年度から新たに開始した前立腺がん検診について受診率向上を図る。

評価日	H28.7.26	記入者職氏名	福祉部次長 北田 裕司
-----	----------	--------	-------------

指標の達成状況	節	指標	単位	(H25)	H27年度	H27年度	H28年度	将来目標(H30)
				現状値	実績	目標値	目標値	
指標の達成状況	第1節 地域福祉	民生委員・児童委員の充足率	%	96	96	100	100	100
		所沢市子どもと福祉の未来館の開設	-	工事(H26)	工事	工事	開設	H28年度開設
		所沢市子どもと福祉の未来館の利用者満足度	%	-	-	-	100	100 (H28年度開設)
	第2節 子ども支援	所沢市子ども支援センターの利用者満足度	%	-	-	-	100	100 (H28年度開設)
		地域子育て支援拠点施設の利用者数	人	126,685	221,345	180,000	248,000	256,000
	第3節 高齢者福祉	老人福祉センター・老人憩の家利用者数	人	327,716	350,527	340,000	343,000	346,000
		一人暮らし高齢者等緊急通報システムの設置数	台	1,155	1,521	1,355	1,455	1,655
	第4節 障害者福祉	グループホーム整備数	人分	70	98	92	99	113
		ところざわ就労支援センター登録者の就職者数	人	358	424	412	439	493
	第5節 社会保障	ジェネリック医薬品の利用率	%	50.5	60.1	60.0	65.0	70.0
国民健康保険特定健康診査の受診率		%	39.4(H24)	38.7	56.0	58.0	60.0	
第6節 保健・医療	「所沢市保健医療計画」の策定・推進	-	策定(H26)	策定	策定	推進	推進	
	大腸がん検診の受診率	%	16.3	17.8	17.0	18.0	20.0	
	他の医療機関等からの紹介入院患者数	人	280	29.2	367	400	400	
	こころの健康講座等の参加者数	人	2,115	2,722	2,300	2,400	2,600	

第1節	地域福祉	互いの顔が見える、地域でみまもり支え合えるまち			
基本方針	3-1-1 地域福祉ネットワークづくりの推進				
	3-1-2 地域福祉活動の充実				
	3-1-3 地域福祉サービスシステムの充実				
関係所属	福祉総務課				
施策に対する市民ニーズ(「平成27年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		711人	33.5%	18位	6位
節の基本方針への取り組み状況(前年度の取り組み状況に対する振り返り・H27年度の目標指標が未達成の理由・分析)					
<p>○「所沢市こどもと福祉の未来館」の整備事業は、既存工事の進捗管理を行うとともに、太陽光発電設備工事、外構工事の契約を行うなど平成29年1月の供用開始を目指し準備を進めた。</p> <p>○平成27年3月に策定した「第2次地域福祉計画」の推進にあたり、学識・知識経験者・関係団体・市民等で構成する地域福祉推進委員会に意見を伺いながら進めるとともに、新しく策定した計画の周知のために「地域福祉フォーラム」を開催した。</p> <p>○民生委員・児童委員の充足率について目標指数が未達成となった。その理由としては、全国的な課題にもなっている民生委員・児童委員活動に対する不安や情報不足が一因と考えられることから、職員が個別案件に対する助言や新任者に対する研修、理事会等への積極的な参加を行うことにより民生委員・児童委員への支援に努めた。</p>					
今後の方向性(「基本方針」に基づいて、今後優先して取り組むべき内容・未達成の目標について、目標の達成に向けて今後実施していく内容)					
<p>○所沢市こどもと福祉の未来館については、平成29年1月の供用開始に向けて建設工事の進捗管理を行うとともに、施設運営のために必要な各種契約事務や規則の整備等を行う。</p> <p>○地域福祉を総合的に推進するため「第2次地域福祉計画」の進捗管理を行う。</p> <p>○市民後見人候補者の養成を行うとともに、成年後見制度の充実を図るため「成年後見制度推進検討委員会」の意見を伺いながら、推進体制を整える。</p> <p>○地域福祉推進の担い手である民生委員・児童委員の一斉改選を控えていることから、担い手を確保するため自治会町内会など地域の組織と連携し、充足率の向上に努める。</p>					
特に力を入れる事務事業	所沢市こどもと福祉の未来館事業	第2次地域福祉計画推進事業	成年後見制度推進事業		
評価日	2016/7/26	記入者職氏名	福祉部次長 北田 裕司		
第2節	子ども支援	子どもたちの成長を社会で支え合いながら、家庭で安心して生み育てることができるまち			
基本方針	3-2-1 子どもの育成支援の充実				
	3-2-2 子育て家庭の支援の充実				
	3-2-3 地域における子育て支援の充実				
関係所属	こども政策課、こども支援課、こども福祉課(松原学園)、保育幼稚園課、青少年課、学校教育課				
施策に対する市民ニーズ(「平成27年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		884人	41.6%	6位	3位
節の基本方針への取り組み状況(前年度の取り組み状況に対する振り返り・H27年度の目標指標が未達成の理由・分析)					
<p>○民間保育園2園の施設整備を進め、200人の受け入れ枠を確保した。</p> <p>○平成29年1月に開設予定のこども支援センターについて、専門機関と連携協定を締結するとともに、設置に係る条例を制定した。</p> <p>○障害児通所支援事業においては、利用相談や通所支援事業所等連絡会を開催することにより、支援体制の充実を図った。</p> <p>○児童発達支援センター松原学園では地域で暮らす障害児やその家族からの相談及び事業所等に対して支援方法の助言等を行う障害児地域生活サポート事業を実施した。</p> <p>○平成27年度から中富小放課後児童対策一体運営事業を開始した。</p> <p>○民設民営児童クラブについて、平成28年4月開所に向けて準備を進めた。</p> <p>○第二所沢児童クラブの増築を行い、42人規模を整備した。</p> <p>○教育委員会との協議を経て、「所沢市放課後児童対策実施方針」を策定した。</p>					
今後の方向性(「基本方針」に基づいて、今後優先して取り組むべき内容・未達成の目標について、目標の達成に向けて今後実施していく内容)					
<p>○地域における子育てを支援する拠点として、こども支援センターを平成29年1月に開設する。</p> <p>○障害児通所支援事業においては、通所支援事業所と連携し支援体制の更なる充実を図る。</p> <p>○児童発達支援センター松原学園では障害児に対する通所による支援を実施するとともに、障害児地域生活サポート事業を継続して、地域支援の充実を図る。</p> <p>○放課後児童クラブとほうかごととの連携を強化し、一体型としての事業展開を図る。</p> <p>○民設民営児童クラブの充実を図る。</p> <p>○平成29年度に予定される、放課後児童クラブの指定管理者更新に係る設計準備を進める。</p>					
特に力を入れる事務事業	地域子育て支援拠点事業	こども支援センター事業	児童クラブ運営事業		
評価日	H28.7.26	記入者職氏名	こども未来部次長 及川 利美		

第3節	高齢者福祉	互いに支え合いながら、健やかでいつまでも住み慣れた地域で暮らせるまち			
基本方針	3-3-1 介護予防体制の充実				
	3-3-2 生きがい支援の充実				
	3-3-3 住み慣れた自宅や地域での生活を支える体制づくり				
関係所属	高齢者支援課、介護保険課				
施策に対する市民ニーズ(「平成27年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		1,082人	50.9%	1位	1位
節の基本方針への取り組み状況(前年度の取り組み状況に対する振り返り・H27年度の目標指標が未達成の理由・分析)					
<p>○各地域包括支援センターにおいて、介護予防講演会および、ねたきり・認知症予防講演会を開催した。</p> <p>○高齢者団体が移動手段として貸切バスを利用した場合の費用の一部を助成し、外出・交流の機会を支援した。</p> <p>○平成29年度から実施する介護予防・日常生活支援総合事業に向けたプロジェクト・チームにより関係部署との調整を図った。</p> <p>○高齢者を地域で支える体制づくり推進していくため、まず、地域資源の把握やニーズの分析を行うことを目的に市全体を担当する「生活支援コーディネーター」を10月から配置した。</p>					
今後の方向性(「基本方針」に基づいて、今後優先して取り組むべき内容・未達成の目標について、目標の達成に向けて今後実施していく内容)					
<p>○高齢者ができる限り自立した生活を送るため、介護予防事業の内容の充実を図るとともに、認知症への理解の周知に努める。</p> <p>○高齢者の外出、交流の機会を設け、生きがいのある生活や介護予防に寄与できるよう引き続き支援する。</p> <p>○「生活支援コーディネーター」が把握した地域資源の情報やニーズについて分析を行うとともに、日常生活圏域ごとにニーズと地域資源、サービス提供主体のマッチングを行う第2層のコーディネータの配置を進める。</p> <p>○介護予防・日常生活支援総合事業について、事業所の実態調査等を行いながら平成29年度の事業開始に向けた具体的な準備を進める。</p> <p>○地域包括ケアシステムの中核機能を果たせるよう、地域包括支援センターの選定を公募にて実施する。</p> <p>○所沢市老人ホーム亀鶴園の改修工事の進捗管理を行い、滞りなく完了させる。</p> <p>○計画的に高齢者福祉施設の整備を支援するため、事業者を公募し選定を行っていく。</p>					
特に力を入れる事務事業	介護予防・日常生活支援事業	地域包括支援センター運営事業	介護予防事業		
評価日	記入者職氏名	福祉部次長 北田 裕司			

第4節	障害者福祉	障害のある人が社会参加しながら、住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまち			
基本方針	3-4-1 社会参加の促進				
	3-4-2 生活支援の充実				
	3-4-3 雇用・就労の促進				
関係所属	障害福祉課、こども福祉課、健康管理課				
施策に対する市民ニーズ(「平成27年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		719人	33.8%	17位	5位
節の基本方針への取り組み状況(前年度の取り組み状況に対する振り返り・H27年度の目標指標が未達成の理由・分析)					
<p>○障害者への理解を深めるための周知啓発活動として、障害者週間記念事業を実施した。</p> <p>○社会福祉法人等との協力により、グループホームの整備に努めた。</p> <p>○ところざわ就労支援センター等との連携による、就労定着支援の強化により、障害者雇用の促進を図った。</p> <p>○発達障害啓発週間に併せて、関係機関や団体の活動をパネル等で紹介する啓発展示会や講演会を開催、また、市民フェスティバルではチラシ配布やパネル展示を行い、市民への発達障害に関する周知、理解促進を図った。</p> <p>○精神障害者が住み慣れた地域で生活を維持し継続していくために、精神科医、看護師、作業療法士等の多職種による「精神障害者アウトリーチ支援事業」を開始した。</p>					
今後の方向性(「基本方針」に基づいて、今後優先して取り組むべき内容・未達成の目標について、目標の達成に向けて今後実施していく内容)					
<p>○共生社会の実現に向け、障害者に対する理解啓発に努めるとともに、障害者の社会参加の促進を図る。</p> <p>○新たに設置した基幹相談支援センターや自立支援協議会と連携し、相談支援体制の充実に努める。</p> <p>○障害者の社会での自立を促進するため、就労支援の更なる強化を図る。</p> <p>○障害のある人が、住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまちを実現させるため、(仮称)障害者差別解消条例の策定への準備を始める。</p> <p>○発達障害に対する理解促進をすすめ、早期発見・早期支援を図るため、引き続き、啓発活動及び講座等を開催する。</p> <p>○精神障害者に対して多職種のアウトリーチチームによる支援を行い、精神科未受診者への早期支援や退院後の再入院防止等を図っていく。</p>					
特に力を入れる事務事業	障害者地域生活支援事業	精神障害者アウトリーチ支援事業	障害者就労支援事業		
評価日	H28.7.26	記入者職氏名	福祉部次長 北田 裕司、こども未来部次長 及川 利美、健康推進部保健センター長 二上 清次		

第5節	社会保障	安心して生活でき、わかりやすい社会保障制度が整っているまち			
基本方針	3-5-1 国民健康保険制度の充実				
	3-5-2 高齢者医療制度の充実				
	3-5-3 国民年金制度の推進				
	3-5-4 介護保険制度の充実				
	3-5-5 低所得者世帯への支援				
関係所属	市民課、国民健康保険課、生活福祉課、介護保険課、健康づくり支援課				
施策に対する市民ニーズ(「平成27年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		859人	40.4%	8位	4位
節の基本方針への取り組み状況(前年度の取り組み状況に対する振り返り・H27年度の目標指標が未達成の理由・分析)					
<p>○国民健康保険財政は税率等改正により税収確保を図ったが、被保険者数の急激な減少及び医療費等の増大傾向を踏まえ改めて試算を行い、歳入不足分を一般会計から繰り入れる法定外繰入額を大幅に増額したことで、3年連続の繰上充用は回避できた。</p> <p>○発足した保健事業プロジェクトチームにより、特定健診受診率向上施策として埼玉西武ライオンズ選手の画像を使用した受診勧奨用ポスターの掲示や商工会議所の月刊誌に健康診査ポスターを折込む等周知を図ったが目標指標は未達成となった。その理由としては、生活習慣病等で医療機関に通院する被保険者の多くが、特定健診の必要性を認識していないことが一因と考えられる。ジェネリック医薬品利用率は目標を達成した。</p> <p>○後期高齢者の健康増進・保持のため健康診査等の情報を広報へ掲載、また保険料収納率向上のため訪問催告を実施した。</p> <p>○介護保険料の改定に伴い、介護保険料決定通知書に改定のお知らせを同封するなど、周知に努めた。</p> <p>○生活困窮者自立支援法の施行に伴い、生活困窮者に対し「自立相談支援事業」等を実施した。</p>					
今後の方向性(「基本方針」に基づいて、今後優先して取り組むべき内容・未達成の目標について、目標の達成に向けて今後実施していく内容)					
<p>○国保税賦課限度額の引上げの検討や更なる収納対策、保健事業の新たな医療費削減施策等により、法定外繰入額の減少に努める。</p> <p>○生活習慣病重症化予防対策事業を引続き行い、人工透析への移行と病状維持や改善を図るとともに、ジェネリック医薬品利用を促進し、医療費の抑制を進める。また、重複受診対象者について訪問指導等を実施し、適正な受診に結びつける。</p> <p>○特定健診受診率向上に向けて、生活習慣病等で医療機関に通院している特定健診対象者に対して、医師会と連携してかかりつけ医師から特定健診の受診を促していただくよう取り組んでいく。また、特定保健指導の受診勧奨についても要請していく。</p> <p>○後期高齢者健康診査の内容の充実を検討し疾病の重症化防止を図り、保険料未納者の訪問催告を計画的に実施して収納率向上を図る。</p> <p>○安定した介護保険制度運営のため、保険料収納対策、要介護認定及び介護給付費の適正化に取り組む。</p> <p>○生活困窮者自立相談支援事業等は「所沢市こどもと福祉の未来館」で実施となることから社協と連携を密にしながら事業を実施する。</p> <p>○生活保護の適正実施と生活困窮世帯の安定的な生活を支援する。</p>					
特に力を入れる事務事業	収納率向上対策事業	特定健康診査等実施事業	ジェネリック医薬品利用促進事業		
評価日	H28.7.26	記入者職氏名	福祉部次長 北田 裕司 健康推進部次長 須田 浩美		

第6節	保健・医療	心身ともに健康と感じ、必要なときに必要な医療を受けられるまち			
基本方針	3-6-1 地域保健対策の推進				
	3-6-2 生涯を通じた健康づくりの推進				
	3-6-3 地域医療・救急医療の充実				
	3-6-4 こころの健康づくりの支援				
関係所属	保健医療課、健康管理課、健康づくり支援課、市民医療センター				
施策に対する市民ニーズ(「平成27年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		1,052人	49.5%	2位	2位
節の基本方針への取り組み状況(前年度の取り組み状況に対する振り返り・H27年度の目標指標が未達成の理由・分析)					
<p>○所沢市保健医療計画策定委員会にて検討を重ね、平成28年3月に保健と医療の一体的な計画となる「所沢市保健医療計画」を策定した。</p> <p>○がん検診の申込み期間の延長、検診車による胃がん、肺がんの同時検診、また土・日曜日に乳がん検診を行った。</p> <p>○市民医療センターでは、所沢市医師会が主体となって平成27年10月から開始した在宅療養支援ベッド確保事業に参画し、在宅医療実施医療機関の後方支援の役割を担った。また、市域において、365日、昼間・夜間・深夜の全ての時間帯で小児初期救急診療体制を維持するため、関係医療機関等との調整を図った。しかし、紹介入院患者数は、地域包括支援センターやケアマネージャーからの紹介数は増となったが、医療機関から紹介数が減となったため目標値に達成しなかった。</p> <p>○救急医療等の不採算医療を担う社会医療法人が開設する病院に対し、運営費の一部の補助を行い、地域医療の充実を図った。</p>					
今後の方向性(「基本方針」に基づいて、今後優先して取り組むべき内容・未達成の目標について、目標の達成に向けて今後実施していく内容)					
<p>○所沢市保健医療計画推進委員会にて、計画の進捗状況の点検・評価を行い、計画の推進を図っていく。</p> <p>○各がん検診の受診率向上を目指すとともに、本年度から新たに開始した前立腺がん検診について受診率向上を図る。</p> <p>○精神保健に関する新たな課題などを踏まえながら各種講演会等を行い、市民の精神保健に対する理解を更に深めていく。</p> <p>○市民医療センターでは、地域医療への貢献や在宅医療支援の機能充実を図り、医療機関への訪問や医療に係るフォーラムに出席するなど広報活動の取組みを通じて連携を更に深め、医療機関からの紹介入院患者を増やしていく。また小児初期救急医療体制の維持と安定的な運営に努める。</p> <p>○「健幸長寿のマチ所沢」を目指して、歩くことに主眼を置き、健康無関心層を取込めるようポイント制を導入した健康づくりを進める。</p>					
特に力を入れる事務事業	所沢市保健医療計画推進事業	がん検診事業	トコロン健幸マイレージ事業		
評価日	H28.7.26	記入者職氏名	健康推進部次長 須田 浩美、健康推進部保健センター長 二上 清次、市民医療センター総務担当参事 小峯 英夫		